①公立中高一貫校、他県の状況は？

2025 年から愛知県にも公立中高一貫校が設置されます。そこで、公立中高一貫校について、基本知識からご家庭での受検対策までをシリーズ企画として取り上げてみます。愛知県にはまだ設置されていないので、受検事情、適性検査問題などは首都圏のものを扱っていきます。

中高一貫教育の優れた点

東海地方の方はあまり意識されていないかもしれませんが、全国的には中高一貫教育の優れた点は広く知られています。簡単にまとめてみましょう。

〇中学校と高校の教育を一貫したカリキュラムマネジメントで学ぶので、ムダがなく、その分深く学べる。

〇高校受験のための勉強が必要でない分、部活、趣味、自分の関心事に思いっきり打ち込める。

〇学校が特色ある教育を実践できる一方で、生徒も個性を伸ばしやすい。

〇大学受験面でも先取りがしやすいので合格実績が上がる。

私立の中高一貫校はたくさんあったのですが、公立には中高一貫校という性格の学校はありませんでした。公立中高一貫校が最初にできたのは 1994 年で、宮崎県の山間部に県立五ヶ瀬中学校、高等学校として設置されました（現在は五ヶ瀬中等教育学校）。

県によっては、高校進学段階で過疎地からの子どもの流出を防ぐために郡部に設置されたケースも多かったのですが、一方で都市部にも多数つくられています。

上記のように中高一貫教育には優れた面が多数あります。が、みな私立だったので、経済的に厳しい層にも中高一貫教育の門戸を広げるという意図から公立中高一貫校がつくられるようになりました。

東京には 11 校もある

では他県でにはどのくらい設置されているのか見てみましょう。

・東京都	都立 10 校　千代田区立１校
・埼玉県	県立１校　さいたま市立２校　川口市立１校
・千葉県	県立２校　千葉市立１校

・神奈川県　県立２校　横浜市立２校　川崎市立１校	
・京都府　府立４校　京都市立１校	
・大阪府　府立１校　大阪市立２校	
・兵庫県　県立２校	
・広島県　県立３校　広島市立１校　福山市立１校	
・福岡県　県立５校	

県（都、府）立と市立があることにお気づきでしょう。県（都、府）でなくても、財政的に豊かな市なら設置できるのです。

公立中高一貫校がないのは６県のみ

上記の表では愛知県と同様に人口の多い都府県を取り上げましたが、実はほとんどの県に公立中高一貫校はあります。岐阜県、三重県にもないので、東海地方の方はあまり関心がなかったかもしれませんが、全国的にはあるのが普通で、ないのは東海地方の３県以外では富山県、鳥取県、島根県だけです。なんと茨城県には 13 校もあります。すべて県立です。ですから今後、岐阜県、三重県にも設置される可能性は大きいでしょう。

また、愛知県は目下予定されている学校はすべて県立ですが、先へ行って名古屋市立が誕生するかもしれません。

公立中高一貫校、３つのタイプ

公立中高一貫校には３つのタイプがあります。下の表以外に「連携型」というものがあり、特定の中学校と高校とで募集人員の一部について無試験で進学できるようになっています。特定の学校間なので、ここでは取り上げません。

タイプ	全国の校数	中学入試	高校入試	名称
併設型	103 校	あり	あり	○○中学校、○○高校附属
中等教育学校	34 校	あり	なし	○○中等教育学校

いちばん大きな違いは、「併設型」が高校からの入学者がいることで（中学入学者、高校入学者の比率は学校で異なる）、「中等教育学校」は高校入試がないので６年間同じメンバーで学ぶことです。

他の都道府県では、「併設型」と「中等教育学校」の両方があることが普通ですが（因みに東京都は

「併設型」が５校、「中等教育学校」が６校）、愛知県で予定されている学校はすべて高校募集のほうが多い「併設型」であることが特徴です。

東京都では「併設型」のすべてで高校募集を２クラスにして、中学からの内進生を４クラスにしていました。高校受験生からすると、

・学習が先に進んでいる内進生に追いつくには大変。
・部活でも人間関係ができてしまっているのではないか。
・募集人員が少ないので受けにくい（東京都立高校は推薦入試と一般入試があり、しかも募集人員が男女別なので少ない印象になる）。

以上の理由から低倍率の入試が続き、2021 年度入試から徐々に「併設型」でも高校募集を閉じてきました。2022 年度の白鴎高校附属を最後に東京都の公立中高一貫校は、すべて高校入試はしなくなりました。ただ校名は〇〇高校附属のままにしています。

愛知県が高校募集の人員を多くしているのは、東京都のこうした事例を参考にしているからだと思われます。